

税金払えば憂いなし

平川あお（沖縄・うるま市立あげな中学校）

今年の八月上旬、私の住む沖縄県に、けが人や死者も出るほどの大型の台風六号が通過しました。台風六号は、停電や断水、食料の不足など、日常生活にも大きな影響をもたらしました。毎日のようにスマホから警報音が鳴り響き、暑さや暗さに耐えながら過ごさなければならぬ人もたくさんいたと思います。

台風により多くの人々が抱えた不安は、台風が過ぎたあとも消えません。通る道には、落ち葉や折れた木が散乱し、とても危険な状態でした。

台風が過ぎ、しばらくしてから、家族で出かけた時のことです。車で移動していると、停電の影響で交差点の信号機が消えていました。運転していた母は

「通勤するときによく通る道だから」

と、平気そうに車を走らせていましたが、私はどこから車が出てくるのかもわからず、とても怖かったのを覚えています。また、もし歩行者が急に飛び出してきたらと考えると、思わず鳥肌が立ってしまいます。

そこで私は、壊れた信号機の修理代がどこからのお金で支払われているのか気になり、インターネットで調べてみました。初めは、その信号機のある地域からのお金だと思っていましたが、税金で支払われていることを知りました。たしかに、自分たちの住んでいる地域、県、国、地球だからこそ、誰かの命を守ることに繋がるのなら、その為に払う税金は必要だと思います。

台風などの自然災害は、いつ、どこで起こるのかわからず、無くすことはできません。でも、備えることはできます。食料や防災グッズなどの備えはもちろんですが、もしもの時の医療や消防、自衛隊などの備えも大切です。その医療や消防、自衛隊なども私たちが払っている税金によって成り立っているそうです。つまり、税金がなければ、私たちが当たり前のように送っている生活ができなくなり、大勢の人々が生命の危険にさらされてしまうのです。

今、税金を払う意味を理解せずに、ただ払わされていると感じている人も多くいると思います。私も今まで税金について、働いてせっかく得たお金をどうしてまた国に支払うのだろうと不思議に思うことがありました。しかし、今回の台風での経験から、税金は私たちを色々な危険から守り、これからの未来を豊かにするために、必要不可欠なものであることを実感しました。「払えばいい」ではなく、自分や家族を守るための税金なのだと理解した上で、払うことに意味があるのではないのでしょうか。

税金払えば憂いなし。